

流域治水プロジェクト新規策定について

令和5年11月30日



流域治水プロジェクトとは

「流域治水」の考えに基づき、国、府、市町村、民間企業、住民等の流域内のあらゆる関係者が、流域全体で緊急的に実施すべき治水対策の全体像。

①位置図

流域内で実施中の取組について、流域図にプロットしたもの

②ロードマップ

今後30年の流域内の治水対策の進捗状況について表したもの

③参考資料

各関係者の取組を一枚にまとめたもの。「氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策」、「被害対象を減少させるための対策」、「被害の軽減・早期復旧・復興のための対策」に分類される。



対象河川について

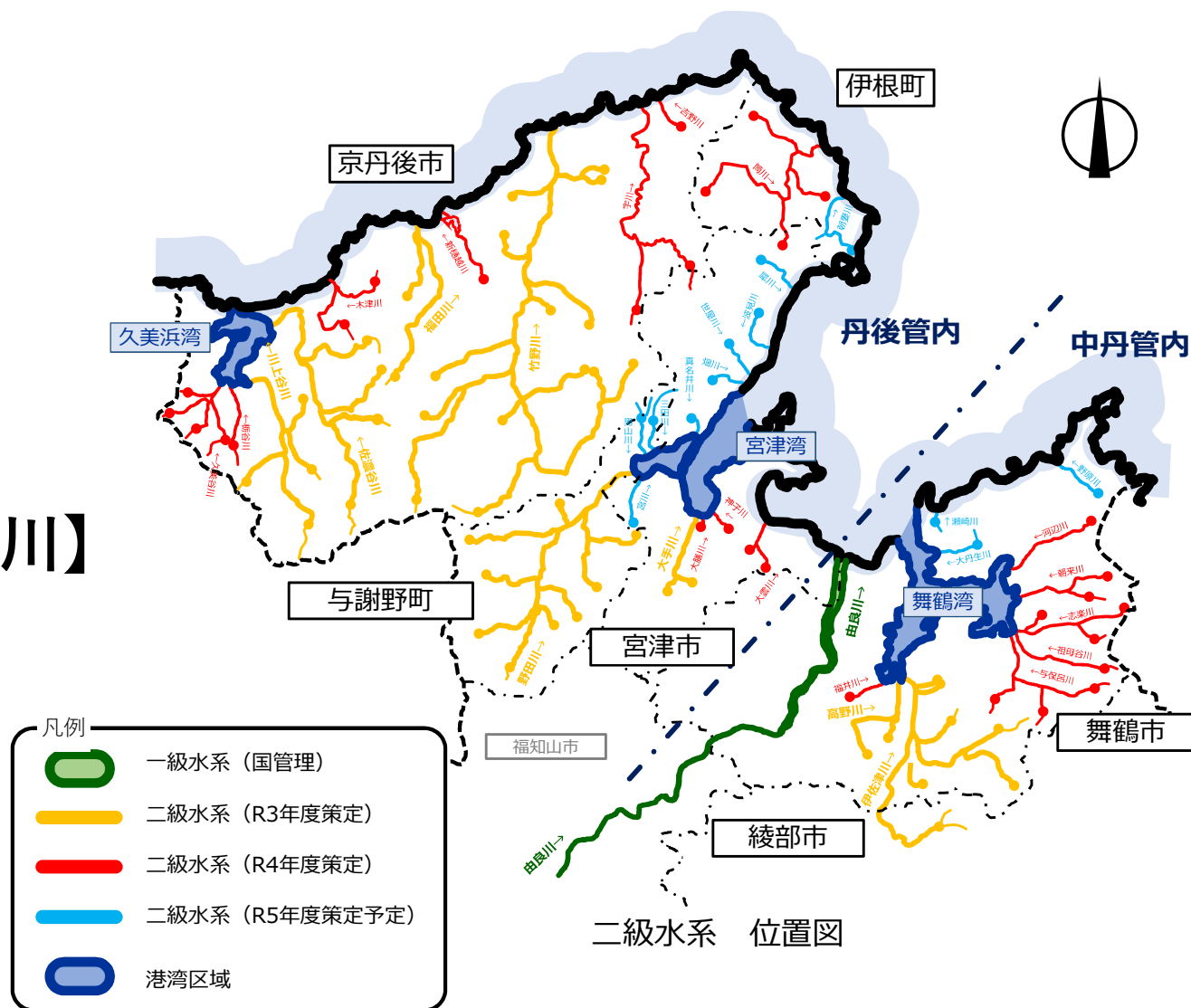
今年度策定対象の水系は以下の**9水系**です。なお、昨年度までに策定の**16水系**についても今回の策定に合わせ、フォローアップを行います。

【策定対象河川】

1. 宮川
2. 男山川
3. 三田川
4. 真名井川
5. 畑川
6. 世屋川
7. 波見川
8. 犀川
9. 朝妻川

【フォローアップ対象河川】

- | | |
|---------|----------|
| 1. 大手川 | 9. 大膳川 |
| 2. 福田川 | 10. 筒川 |
| 3. 川上谷川 | 11. 吉野川 |
| 4. 野田川 | 12. 宇川 |
| 5. 竹野川 | 13. 新樋越川 |
| 6. 佐濃谷川 | 14. 木津川 |
| 7. 大雲川 | 15. 栃谷川 |
| 8. 神子川 | 16. 久美谷川 |



みや おとこ やま み た ま な い はた
宮川・男山川・三田川・真名井川・畑川
せ や は み さい あさ づま
世屋川・波見川・犀川・朝妻川水系

流域治水プロジェクト(案)



～丹後半島東部地域で流域治水の推進～

○気候変動による水災害の激甚化・頻発化に対応するため、宮川、男山川、三田川、真名井川、畑川、世屋川、波見川、犀川、朝妻川においても事前防災対策を進める必要があり、以下の取り組みを実施していくことで、流域における浸水被害の軽減を図る。

対策内容

- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- ・河川等の維持管理
 - ・土砂災害を防止する施設の整備・維持
 - ・流域の雨水貯留機能の向上・保全

- 被害対象を減少させるための対策
- ※対策が実行され次第、掲載します

- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
- ・水災害リスク情報空白地帯の解消
 - ・住民の水害リスクに対する理解促進の取組
 - ・土砂災害危険区域等の指定
 - ・土地等の購入に当たっての水災害リスク情報の提供
 - ・避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実
 - ・確実な避難行動の実施
 - ・排水ポンプ車導入、出動要請の連絡体制の整備、排水計画に基づく排水訓練の実施
 - ・水防工法等の訓練や土のう等の備蓄資材確保など水防活動の支援
 - ・被災自治体に対する支援の充実
 - ・地図混乱地域の解消
 - ・緊急車両の移動経路の確保

※災害からの安全な京都づくり条例に基づき、府、市等が一体となって防災対策を推進

凡例

- 京都府管理河川
- 流域界
- (完) 対策完成
- 流域内各地の対策



図-1 維持掘削・河道内樹木伐採

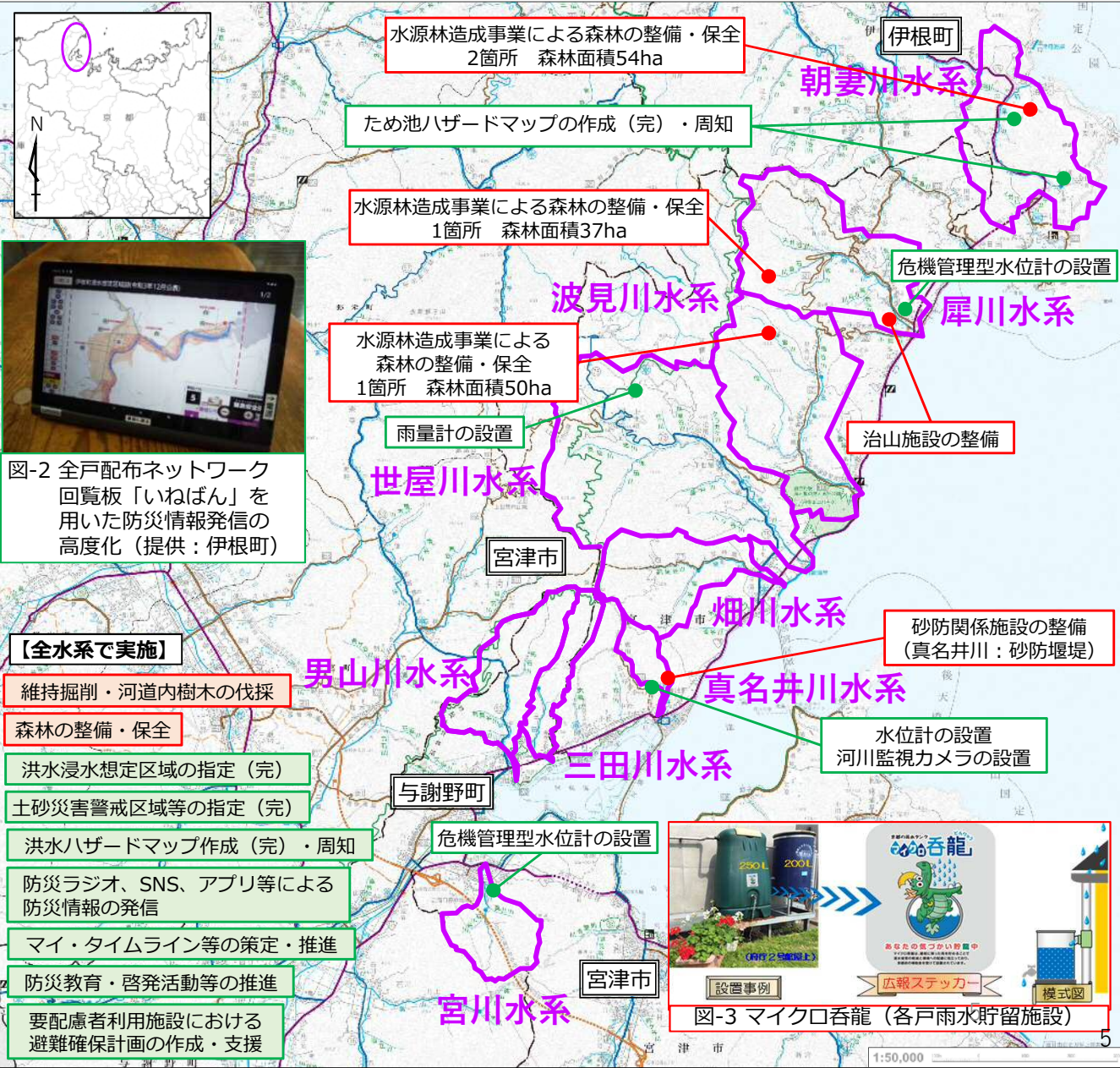


図-2 全戸配布ネットワーク閲覧板「いねぼん」を用いた防災情報発信の高度化（提供：伊根町）

【全水系で実施】

- 維持掘削・河道内樹木の伐採
- 森林の整備・保全
- 洪水浸水想定区域の指定（完）
- 土砂災害警戒区域等の指定（完）
- 洪水ハザードマップ作成（完）・周知
- 防災ラジオ、SNS、アプリ等による防災情報の発信
- マイ・タイムライン等の策定・推進
- 防災教育・啓発活動等の推進
- 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成・支援
















図-3 マイクロ呑龍（各戸雨水貯留施設）

※本図は全対策の内、代表的な対策を記載している。
※具体的な対策内容については今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

～丹後半島東部地域で流域治水の推進～

- 宮川、男山川、三田川、真名井川、畑川、世屋川、波見川、犀川、朝妻川水系では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、府、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
【短期】 浚渫等の河川維持管理を実施するとともに、治山施設の整備を実施する。
【中長期】 河川維持管理や森林の整備・保全を進めるとともに、「確実な避難行動の実施」等のソフト対策の充実を図る。

区分	主な対策内容	実施主体	工程 ( 対策実施中  対策完成)	
			短期 (令和5年度～令和9年度)	中長期 (令和10年度～令和34年度)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河川等の維持管理	京都府・宮津市・伊根町・与謝野町		
	土砂災害を防止する施設の整備・維持	京都府		
	流域の雨水貯留機能の向上・保全	京都府・森林整備センター		
被害対象を減少させるための対策	—	—		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水害リスク情報空白地帯の解消	京都府・宮津市・伊根町・与謝野町		
	住民の水害リスクに対する理解促進の取組	宮津市・伊根町・与謝野町		
	土地等の購入にあたっての水害リスク情報の提供	宮津市・伊根町・与謝野町		
	避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実	京都府・宮津市・伊根町・与謝野町		
	確実な避難行動の実施	京都府・宮津市・伊根町・与謝野町		

緊急浚渫推進事業計画に基づく河道掘削

治山施設整備

気候変動を踏まえた更なる対策を推進

※スケジュールは今後の事業進捗の状況によって変更となる場合がある

宮川・男山川・三田川・真名井川・畑川・
世屋川・波見川・犀川・朝妻川水系
流域治水プロジェクト

【参考資料】

- 河積阻害を軽減し、流下能力を向上させるために河道の維持管理掘削を進めている。



与謝郡与謝野町字男山地内

浚渫〈維持掘削〉

施工前



施工後



施工中



氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策事例

<真名井川 事業間連携砂防等事業>

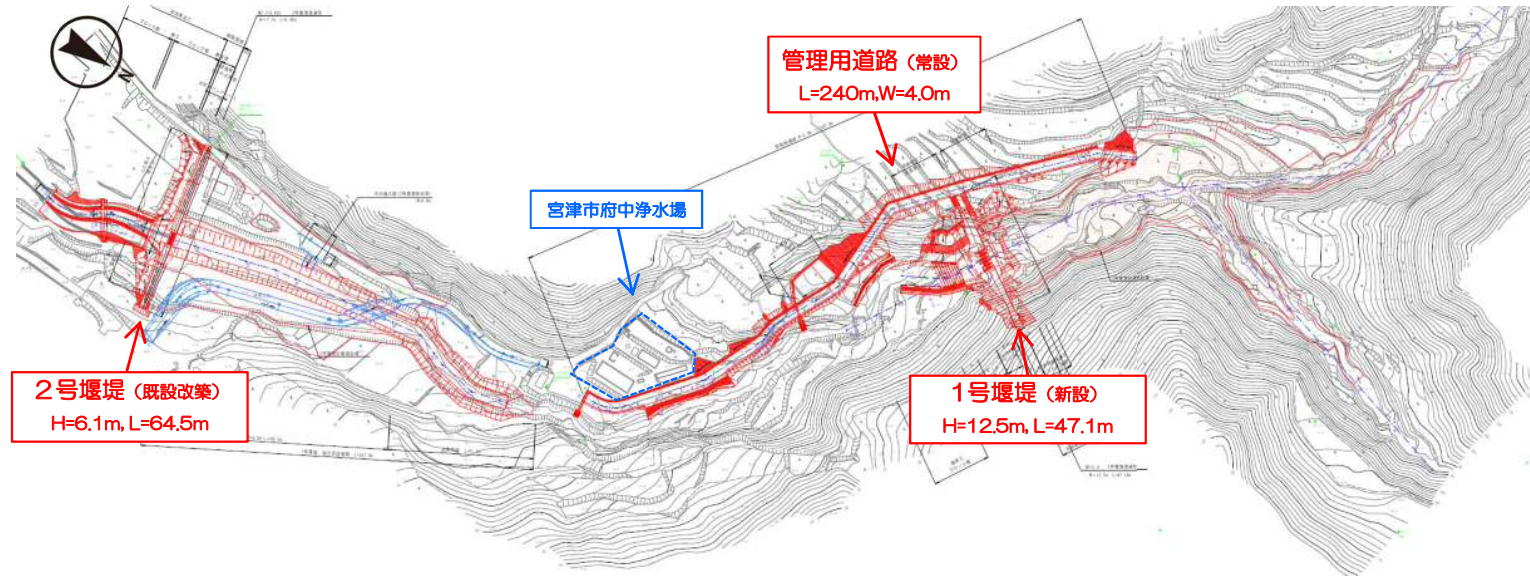
京都府丹後広域振興局建設部

- 事業目的：当該箇所は土石流危険渓流であり、下流部に位置する民家、国道等を今後の豪雨等による土石流から守るため、砂防堰堤を施工し、土石流災害を未然に防止する。

○位置図

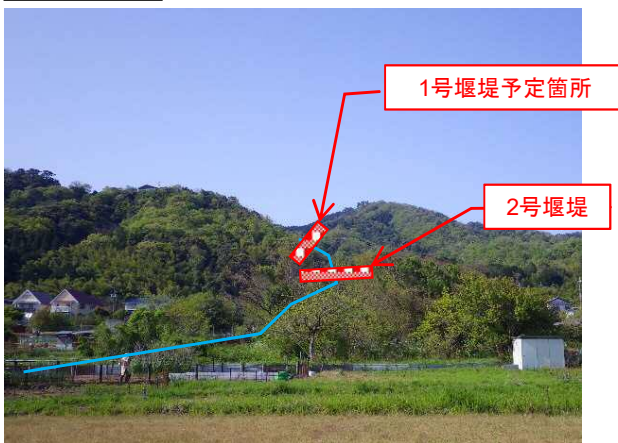


○計画平面図

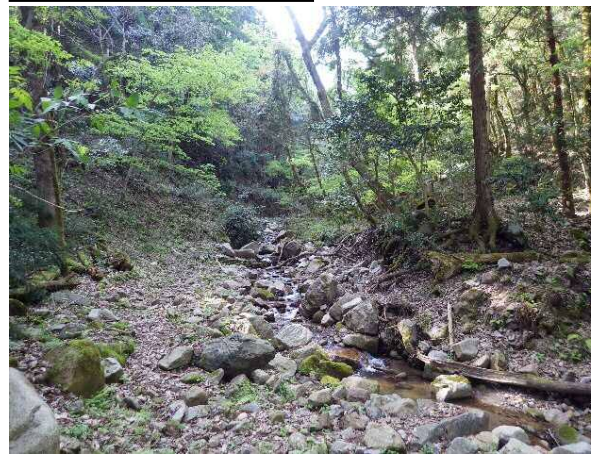


○写真

溪流全景



1号堰堤予定箇所



2号堰堤

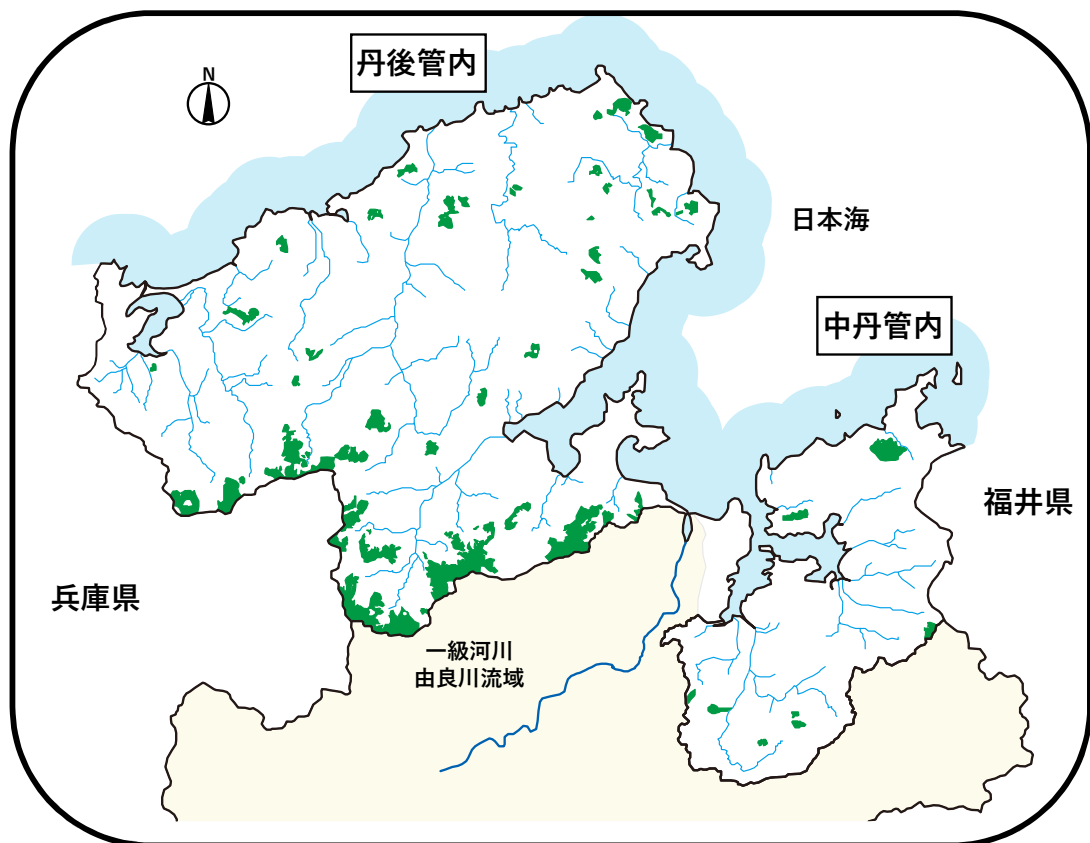


氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策事例

<水源林造成事業による森林の整備・保全>

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター 近畿北陸整備局

- 水源林造成事業は、奥地水源地域の民有保安林のうち、所有者の自助努力等によっては適正な整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る事業です。
- 水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進します。
- 丹後管内流域における水源林造成事業地は、103箇所（森林面積約4,440ha）であり、流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施していきます。



水源林の整備



針交混交林



育成複層林

森林整備実施イメージ



間伐実施前



間伐実施後

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

＜洪水等ハザードマップの作成・配布＞

宮津市

ゲリラ豪雨や台風等による大規模洪水の発生に備え、市民に早めの避難行動を促すため、洪水ハザードマップを作成し、流域世帯へ配布(R元～R3)。
津波(新規)、土砂災害(更新)のハザードマップも配布した(R3)。



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

＜地区防災計画の作成を推進＞

地域住民が、地元の災害リスクについて話し合い、防災意識を高め、早期の避難行動が図れるよう、住民自らが災害避難計画を策定する「地区防災計画」を推進(R元～)。
 作成自治会数:H26:6、R元:4、R2:5、R3:2、R4:9(R5.3月末現在)

警戒体制+マップの冊子型

地区防災マップのポスター型

漁前町自治会 地区防災計画

平成16年台風23号・平成30年7月豪雨による浸水状況

土砂災害警戒区域図

大手川水系大手川 洪水浸水想定区域図 (想定最大規模)

津波浸水想定区域図

畑地区防災計画 (防災マップ)

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、適切な安全行動をとりましょう

【災害・避難カード】

土砂災害	例
いつ	大雨・暴風時
どこへ	指定避難所
どのように	避難経路

銀丘地区防災計画 (地区防災マップ)

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、適切な避難等安全行動をとりましょう

【災害・避難カード】

土砂災害	例
いつ	大雨・暴風時
どこへ	指定避難所
どのように	避難経路

地域住民主体による地区防災計画の作成について

地区防災計画とは...★災害が発生した場合における地区居住者等の相互の支援その他の当該地区における防災活動に関する計画 (災害対策基本法第42条第3項)

防災計画＝計画の防災対策の整備・推進

- 中央防災会議 : 防災基本計画
- 指定行政機関・指定公共機関 : 防災業務計画
- 都道府県・市町村防災会議 : 地域防災計画
- 市町村の居住者・事業者 : 地区防災計画

★住民自らが、危険を知り、災害に備え、自分達と地域を守ろうとする計画

●地域住民が主体的に、地域の特性に応じて、自由な内容で作成するもの

■目的(基本方針):地域防災力を高めて、地域コミュニティを維持・活性化する

地区防災計画(案)

活動を発展させよう

- 行政と連携しよう
- 地域の活動と連携しよう
- 地域の輪と結び合おう
- 取組を発信しよう

災害時の力を高めよう

- 事前に防災しよう
- 教育・訓練しよう
- 準備を怠らなそう

平常時 TEAM 災害時

みんなで何ができるかな

自分では何をやるべきかな 行政では何をやってもらえるのかな

どんな災害があるんだろう

この迎って災害に強いかな

共通課題「防災減災」で、よりよいまちづくり・安心安全の地域づくり

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

<避難確保計画の作成促進>

洪水浸水想定区域内等の要配慮者利用施設の管理者等による避難確保計画作成を促進(R2～)
災害警戒時に施設利用者・職員等の速やかな安全確保ができるよう必要な事項を定めるもの

警戒区域内にある13の入所型福祉施設はR3にすべて作成

避難確保計画
作成数

～R元	R2	R3	R4	計
3	13	14	7	37

作成対象施設	区分	洪水	土砂	津波	実計	作成
	福祉	10	15	4	25	
学校	5	5	2	11	11	
医療	1		1	1	1	
計	16	20	7	37	37	



※土砂+洪水など警戒区域が重複する施設あり

対象施設すべて作成

要配慮者利用施設の所有者・管理者の皆さまへ

避難確保計画の作成・避難訓練の実施について

～要配慮者利用施設における円滑かつ迅速な避難のために～

「水防法等の一部を改正する法律（平成29年法律第31号）」の施行により、要配慮者施設の避難体制の強化を図るため『水防法』及び『土砂災害防止法』が平成29年6月19日に改正されました。
※土砂災害防止法の正式名称は「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」です。

ポイント! 浸水想定区域や土砂災害警戒区域内の要配慮者利用施設※の管理者等は、**避難確保計画の作成・避難訓練の実施が義務**となっています。※市町村地域防災計画にその名称及び所在地が定められた施設が対象です。

【浸水想定区域】 浸水想定区域
【土砂災害警戒区域】 土砂災害警戒区域

※「洪水浸水想定区域」とは、河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域であり、河川等管理者である国または都道府県が指定します。

※「土砂災害警戒区域」とは、土砂災害が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、都道府県知事が指定します。

要配慮者利用施設 とは…
社会福祉施設、学校、医療施設
その他の主として防災上の配慮を要する方々が利用する施設です。

例えば

- （福祉施設）
 - 老人福祉施設
 - 障害者福祉施設
 - 児童福祉施設
 - 障害者就業・生活支援センター
 - 障害者自立支援センター
 - 障害者相談センター
 - 障害者就業・生活支援センター
 - 障害者就業・生活支援センター
- （学校）
 - 幼稚園
 - 小学校
 - 中学校
 - 高等学校
 - 特別支援学校
 - 職業訓練校
 - 特別支援学校
 - 高等専門学校
 - 専門学校
 - 短期大学
 - 大学
 - 大学院
- （医療施設）
 - 病院
 - 診療所
 - 介護施設
 - 母子・父子福祉施設
 - 母子健康相談センター
 - 等

※ 義務付けの対象となるのは、これら要配慮者利用施設のうち、市町村地域防災計画にその名称及び所在地が定められた施設です。

1 避難確保計画の作成

※「避難確保計画の作成の手引き」を国土交通省水管理・国土保全局のホームページに掲載していますので、計画作成の参考としてください。

- 「避難確保計画」とは、水害や土砂災害が発生するおそれがある場合における利用者の円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な事項を定めた計画です。
 - >防災体制 >避難誘導 >施設の整備 >防災教育及び訓練の実施
 - >自衛水防組織の業務（※水防法に基づき自衛水防組織を置く場合）
 - >そのほか利用者の円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な措置 に関する事項
- 避難確保計画が実効性あるものとするためには、**施設管理者等の皆さまが主体的に作成いただくことが重要**です。
- 作成した避難確保計画は、職員のほか、利用者やご家族の方々も日頃より確認することができるよう、その概要などを**共用スペースの掲示板などに掲載**しておくことも有効です。

- 全国で発生している地震や風水害による災害に備えるため、住民及び各自治組織、防災関係機関が一体となった防災訓練を毎年実施している。

防災教育

- 防災に係る学習の機会を設け、防災・減災対策の知識を深め、防災意識の向上を図る
- 令和4年には町内の子育て女性による“防災ママサークル”も発足し、活発に活動されている。

<出前講座>

町内の各種団体から依頼を受け、地震や水害時の避難に係る内容を中心とした防災講座を実施



防災訓練

- 大規模で広範囲な水災害を想定し、各自治組織などと連携した防災訓練を実施

<住民避難訓練>

全町民を対象とした避難訓練を実施。各自治組織と連携し、避難状況の情報収集を行う。

<自主防災組織による取組み>

町内の自主防災組織が独自に訓練を実施したり、防火設備の点検を行うなどの取組みを行っている。

<関係機関と連携した取組み>

各関係機関と連携した訓練を実施し、現実的な災害対応訓練に取り組む。また、消防本部や防災関連企業等による防災体験ブースを設置し、災害時の状況を体験を通じて防災を学ぶ取組みを実施



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

＜洪水・土砂災害ハザードマップの作成・周知＞

与謝野町

● 住民に防災に関する情報を提供し、事前の備えに役立ててもらうことを目的に、洪水や土砂災害による浸水エリアや危険箇所、避難施設などの避難に必要な情報を記載した『与謝野町洪水・土砂災害ハザードマップ』を作成し、町内各戸への配布と町ホームページでも公開し、減災のための情報発信を行っている。

平常時から災害に備える

- 浸水想定区域や土砂災害による危険箇所を掲載

想定最大規模の浸水想定区域図等の公表状況

種別		公表状況
洪水		完了
土砂災害	Y	完了
	R	完了

災害時に利用する

- 災害時に役立つ気象情報や河川防災情報など、インターネットによる情報入手先を掲載
- 水害時に使用可能な避難施設を掲載
- 警戒レベルと避難情報発令の際にとるべき行動などを掲載

The map displays the town's geographical features, including rivers and roads, with color-coded areas indicating flood and landslide hazards. Information panels provide residents with essential details on how to stay informed during emergencies, what to do at different warning levels, and where to evacuate. A legend identifies various evacuation facilities like schools, community centers, and public buildings.

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

＜ため池ハザードマップの作成・周知＞

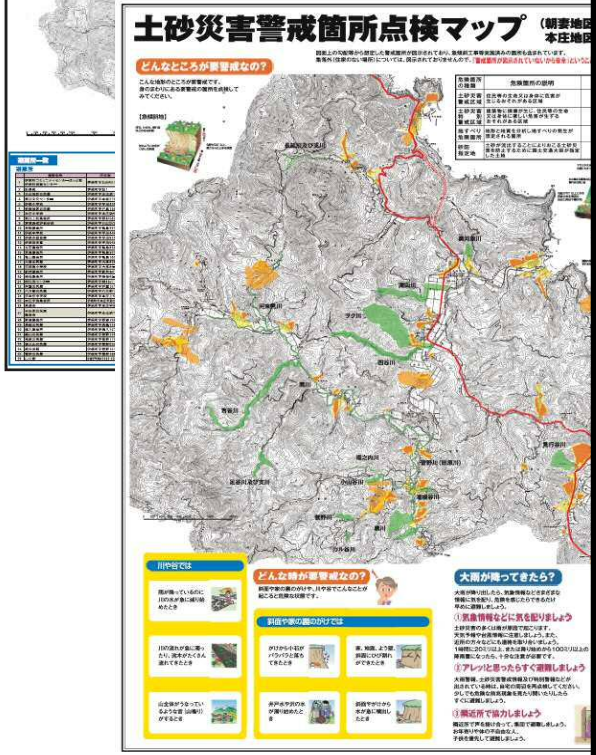
伊根町

- ハザードマップは万が一、ため池の堤体が決壊した場合の備えとして、安全な避難行動に役立てることを目的として作成。
- ため池災害による被害軽減に向けた避難計画の策定、防災意識の啓発、防災を意識した地域づくり及び行政と住民とのコミュニケーション等のツールなど、確実な減災対策の一助としてハザードマップを活用。



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例＜洪水ハザードマップの作成・周知＞ 伊根町

- 伊根町では最新の解析結果に基づき、筒川の「浸水想定区域図」を令和3年10月に更新し、周知を行いました。
- 浸水想定のほか、「土砂災害警戒箇所マップ」や「避難所位置図」などの各種防災マップも配布しています。
- これらハザードマップなど防災や安全に関わる情報は、町内の全世帯に配布したタブレット端末「いねばん」を使用し、いつでも確認することができます。



各種防災マップがいつでも確認できる



ネットワーク回覧板「いねばん」

朝妻川浸水想定区域図

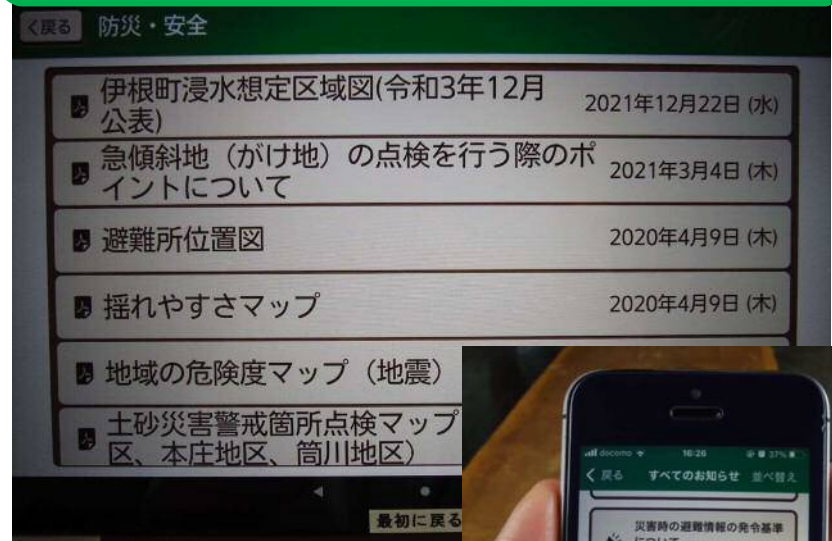
- 伊根町ではアナログ防災行政無線の更新に伴い、町内の全世帯にタブレット端末を配布し、ネットワーク回覧板の「いねばん」を運用しています。アナログ防災無線では、放送の聞き逃しや音声情報のみの放送で理解しにくい課題がありましたが、「いねばん」では情報を繰り返し確認することができ、音声のほか画像の配信も可能です。
- 有事の際には防災関連情報を随時発信できるほか、日ごろから浸水想定区域図や避難所などの情報を、画像で確認することができます。



ネットワーク回覧板「いねばん」
タブレット端末を全世帯に配布



各種防災情報をいつでも画像で確認することができる。



アプリをダウンロードすることでスマートフォンでも受信することができる。

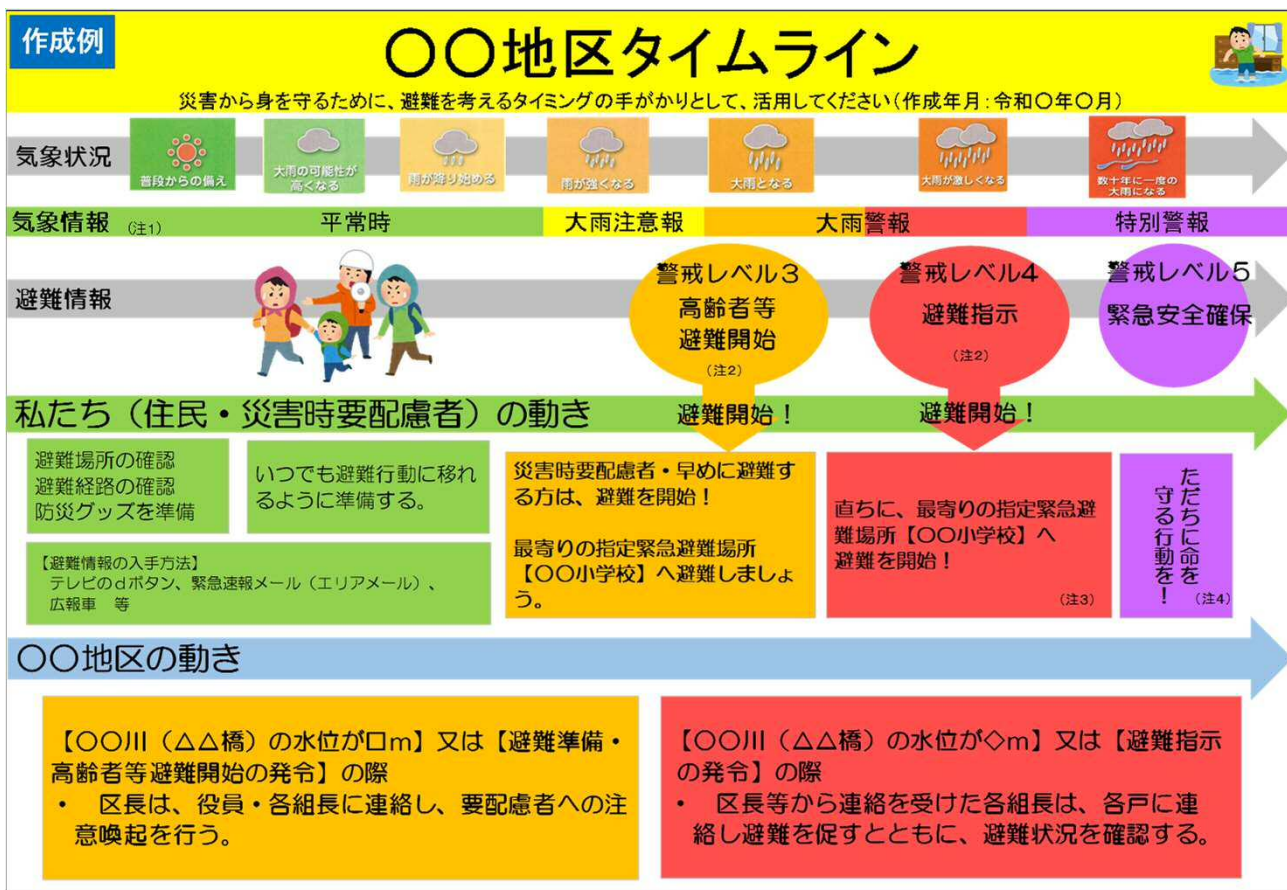


被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

<タイムライン等の作成支援>

京都府丹後広域振興局地域連携・振興部

水害等の発生リスクが高まった際に、危険地域の住民が自発的に避難行動できるよう、ワークショップに専門家を派遣し、地域状況等に応じて「いつ」「どこへ」「どのように」避難するのかを定めるタイムラインや災害・避難カードの作成を支援



ワークショップ風景

作成例 災害・避難カード

	水害	土砂災害
避難の合図(スイッチ)	<ul style="list-style-type: none"> ○○川の洪水警報の危険度分布が紫色になったとき ○○地区に「警戒レベル4」が発令されたとき 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の住んでいる地域で、土砂災害警戒情報が発表されたとき
避難先	<ul style="list-style-type: none"> 指定緊急避難場所: ○○小学校、△△中学校 次善の避難場所: ○○公民館 	<ul style="list-style-type: none"> ○○小学校、△△中学校 ○○さんの家
メモ欄	<ul style="list-style-type: none"> 避難する際は、防災グッズを持ち出すこと ○○さんへの避難の声掛けを行うこと 災害用伝言ダイヤル(171) (災害などで電話が繋がりにくくなった場合に提供が開始される伝言板) 	

○市町村から避難情報が出された際は、避難行動をとって下さい。

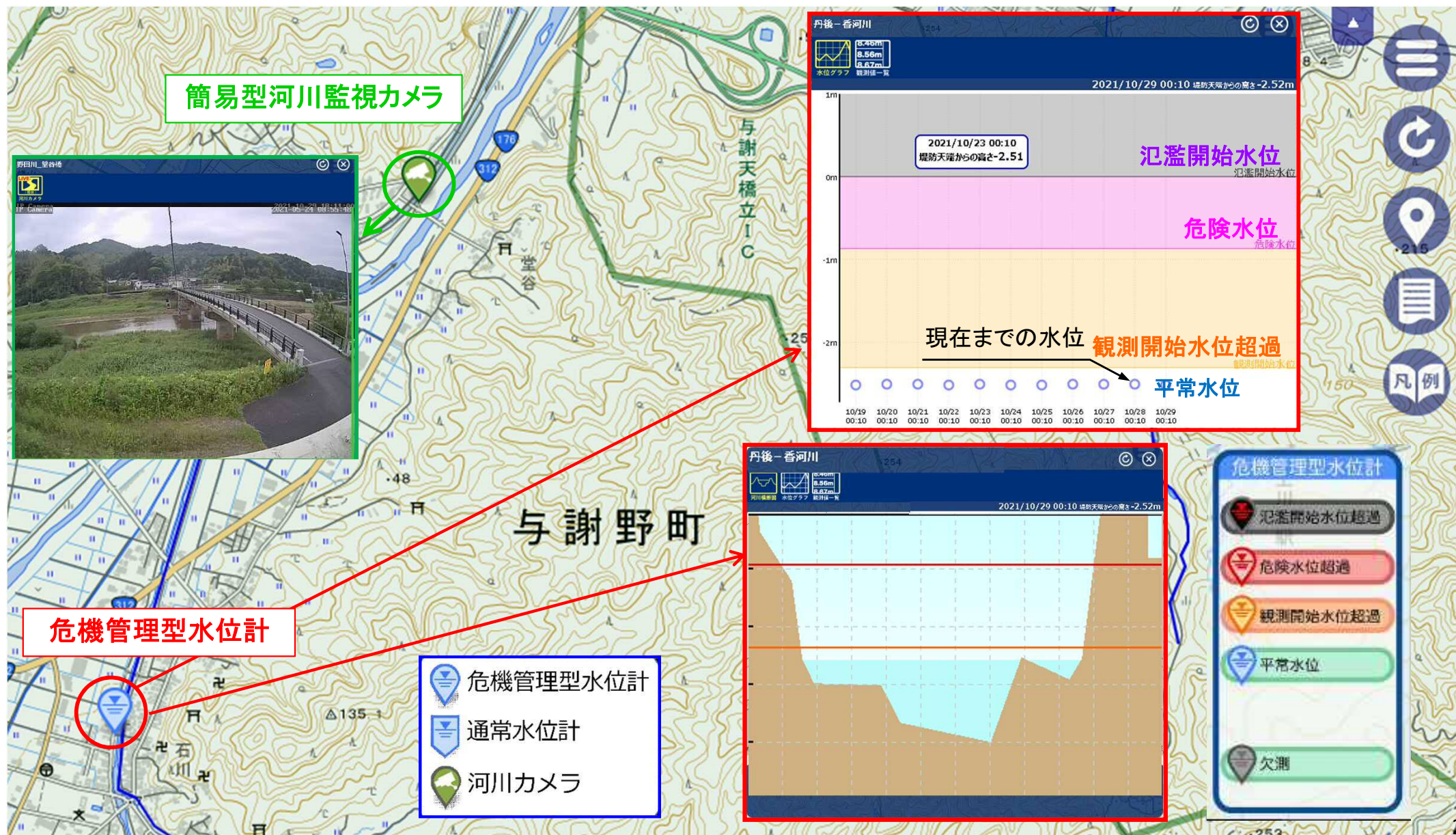
- 高齢者等避難
 - 避難に時間を要する人(高齢の方、障がいのある方、乳幼児等)とその支援者は避難しましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。
- 避難指示
 - 速やかに危険な場所から避難しましょう。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策事例

<水位計・河川監視カメラ等の設置・情報提供>

京都府 建設交通部

- 府管理河川において、洪水時の水位観測に特化した危機管理型水位計を126箇所を設置し、また、機能を限定した低コストな簡易型河川監視カメラを73箇所を設置し、府のホームページで住民への情報提供を行っています。



〈災害からの安全な京都づくり条例〉

災害からの安全な京都づくり条例の体系図

●3年連続(H24～H26)の豪雨災害
●南海トラフ地震等の備えが必要

これまでの制度や施策を超えた対策が必要

方向性

ハード・ソフト両面から府民の総力を挙げた取組

- ・ハード・ソフト両面から徹底した基盤整備を実施
- ・府及び府民等が協働して防災対策を推進

補完・具体化

- 災害に備える事前対策を規定
- 各防災対策ごとに、府の施策及び府民等の取組を明確化して規定

法的根拠

京都府地域防災計画

府その他防災関係機関が行う具体的施策を規定

府	予防
市町村	災害応急
指定公共機関	
防災関係機関	災害復旧

災害対策基本法

災害からの安全な京都づくり条例

1 総 則	
目的	○府民の生命、身体及び財産を災害から保護 ○府民が安全に暮らすことができる京都府を実現
基本理念	○災害危険情報の共有 ○防災上の機能を強化するまちづくりの推進 ○地域防災力の向上 ○災害が発生した場合の体制の構築 ○被災者の基本的人権を尊重 ○要配慮者、男女共同参画の視点に配慮
2 災害危険情報の共有	3 災害に強いまちづくり
<p>①府による災害危険情報の整備、公表</p> <p>○府は、災害危険情報の整備・公表</p> <p>②府民等による災害危険情報の把握等</p> <p>○府民、自主防災組織、事業者はあらかじめ災害危険情報を把握 ▲ ○府民、自主防災組織は防災マップの活用や避難場所等を確認し、安全確保の検討 ▲ ○事業者は、従業員等の安全確保計画を作成 ▲ ○地域住民、従業員等に周知 ▲</p> <p>③宅地建物取引業者に係る特定災害危険情報の提供、把握</p> <p>○府は、宅建業者に特定の災害危険情報を提供 ○宅建業者は災害危険情報を把握 ■</p>	<p>④総合的治水対策</p> <p>○河川下水道対策 ▲ ○雨水貯留浸透対策 ・一定規模以上の開発行為には調整池設置 ■ ・雨水貯留浸透施設の設置 ▲ ・森林の適正管理 ▲ ・土地の遊水機能の維持等 ▲ ○浸水被害軽減対策 ・公共建築物の耐水機能の確保 ▲ ・排水機場等の適切な操作 ▲ ・ため池の決壊の防止等 ▲</p> <p>⑤地震・津波等の防災対策</p> <p>○建築物の安全性の確保 ▲ ○公共施設の安全性の確保 ○屋内家具等の安全性の確保 ▲ ○工作物等の安全性の確保 ▲ ○指定等文化財建造物の安全性の確保等 ▲</p> <p>⑥特定地域防災協議会</p> <p>【国、府、市町村等で構成】 ○府が、市町村の申出により、設置可能 ○災害種別に応じた事業計画を作成</p>
4 災害に強い人づくり	5 災害発生時の体制づくり
<p>⑧自主防災組織等の活動促進</p> <p>○自主防災組織等は、消防団等と連携して、危険箇所の把握、有用情報の調査、防災マップの作成、防災訓練の実施、地区防災計画の素案の作成 ▲ ○府は、市町村と連携して、自主防災組織等の取組を支援</p> <p>⑨自主防災組織等への参加促進</p> <p>○府民等は、自主防災組織を結成・参加、消防団に参加 ▲ ○府は協力、支援</p> <p>⑩教育・訓練等</p> <p>○府民は、防災を学習、教育・訓練に参加 ▲ ○府は支援等</p> <p>⑪人材の育成</p> <p>○府は、防災リーダー・ボランティアコーディネーターを育成</p>	<p>○備蓄の推進、物資の輸送 ▲ ○避難行動要支援者への支援等 ▲ ○帰宅困難者等に対する措置等 ▲ ○事業継続計画等 ・京都BCPの推進 ▲</p>
6 雑 則	
<p>○財政上の措置 ○立入検査 ○市町村条例との関係 ○規則への委任</p>	
7 罰 則	
<p>【凡例】 ■：義務 ▲：努力義務</p>	